

取り決め事項

1. 内野手のボール回しを認める。(一回りのみ)
但し、試合時間が極端に長引くことが予測される場合には、途中からボール回しを禁止する場合もある。
2. 打者交代時、監督から球審への手法の簡素化。(当該打者の背番号を見せる等)
3. 塁上の走者及びベースコーチが、守備側のサインを盗みそれを打者に伝達することを禁止する。
◎「公認 野球規則 6・02」の遵守
◎「公認 野球規則 8・04」の遵守

スピードアップに関する監督申し合わせ事項

〈 監督の行動 〉

1. マウンドへの行き帰りは、小走りにスピーディーな行動をとる。
2. 監督がマウンドから離れたら、すみやかに野手も自己の守備位置に戻る。
3. 複雑なサインによる時間のロスをなくす。
4. 投手交代時、コーチがマウンドに行きその後、監督が球審に投手交代を告げる行動を慎む。

〈 選手への指導 〉

スパイクシューズ履き替えについて

- ◎ 打者走者または走者が守備につく場合、走者についてはファールテリトリーが目立たない所(コーチャースボックス等)へ交換スパイクシューズをベンチ要員が持って行き、すみやかに履き替えポジションにつくこと。

〈 選手の行動 〉

1. 投球のインターバルの短縮を心がける。
2. 打者はすみやかに打席に入る。(特にイニングの先頭打者)
3. 捕手から投手への返球をすみやかに行う。
4. 野手から投手への返球もすみやかに行う。
5. 内野手と投手間のサイン交換を行う際はすみやかに行う。
6. 防具の着脱はすみやかに行う。
7. 攻守交代はスピーディーな行動をとる。
8. ファウルボールが打たれた時、塁上の走者はスピーディーに帰塁すること。
◎ 大会前の練習・オープン戦時から積極的にご指導戴き、大会でスムーズに実践出来るように心がけて下さい。

以 上

社会人野球注意すべき規則

- (1) 投手は、投手板に触れて捕手からのサインを受けなければならない。(8.01)
- (2) 投手は、セットポジションをとるに先立って、片方の手を下に下ろして身体の横につけていなければならない。この姿勢から中断することなく、一連の動作でセットポジションをとらなければならない。(8.01(b)〔原注〕)

〔規則適用上の解釈〕

走者がいるとき、軸足を投手板に触れている投手が、捕手(野手を含む)にサインを出すか、あるいは受けるなど手を動かして肩や胸等に触れる動作をした場合には、本規則に違反するのでボークとなる。

又、軸足を投手板からはずして同様な動作をした場合には、遅延行為とみなされ、ボークとなる。(8.05(h))

- (3) 投手が投手板に触れているとき、走者のいる二塁と三塁へは、その塁の方向に直接ステップすれば偽投してもよいが、一塁と打者への偽投は許されない。(8.05(b)〔注〕)

〔規則適用上の解釈〕

投手板に触れている投手が、投げる方の手にボールを持たないで塁に送球する真似だけして、実際に送球しなかった(偽投)場合には、遅延行為とみなされボークとなる。(8.05(h))

- (4) 投手は、打者への投球に関連する動作を起こしたならば、途中で止めたり、変更したりしないで、その投球を完了しなければならない。(8.01(a)①、(b)②)

〔規則適用上の解釈〕

投手は、スムーズな一連の動作で打者への投球を完了しなければならない。投球動作中に、タメを作ると称して一瞬でもその動作を一時停止させたり、ことさら段階をつけるモーションをしたり、体の中心軸を静止させておき、一部分(腕、脚、足など)だけをぶらぶらさせた後に投球することは許されない。投手に少しでもこのような動作が見られた場合は、審判員は8.01(d)項を厳格に適用しなければならない。

- (5) 捕手はボールを持たないで、得点しようとしている走者の進路をふさぐ権利はない。

塁線(ベースライン)は走者の走路であるから、捕手は、まさに送球を捕ろうとしているか、送球が直接捕手に向ってきており、しかも充分近くにきていて、捕手がこれを受け止めるにふさわしい位置をしめなければならなくなったときか、すでにボールを持っているときだけしか、塁線上に位置することができない。この規定に違反したとみなされる捕手に対しては、審判員は必ずオブストラクションを宣告しなければならない。(7.06〔付記〕)

〔規則適用上の解釈〕

捕手があらかじめ塁線上及びその延長線上の塁上に位置して(足または脚を置いて)送球を待つことを禁止する。捕手がこれに違反した場合は、全てオブストラクションの対象となる。(7.06〔付記〕、2.51)(アマ内規⑧)

社会人野球申し合わせ事項

(2012年2月施行)

1. 試合中、次打者以外はグラウンド内で素振りをしない。ベンチ裏の専用スペースを利用する。また、次打者も投球時には低い姿勢で待機すること。
2. 試合中の外野方面へのランニングは、イニングの合間のみとする。ただし、プレイがかかる前には全員がベンチ内に戻ること。
3. お互い社会人として程度の悪い野次は嚴重に慎むこと。
4. スピードアップに関する監督申し合わせ事項を遵守する。
5. ベンチへ持ちこむメガホンは2個までとし、監督・コーチ等(選手以外)が指示を出す場合のみに使用を限定する。
6. 選手のリーダーが音頭を取り、声を揃えて拍手をする行為は自粛すること。
7. 出迎えを禁止する。
(1) 本塁打・選手交代・攻守交替などベンチから出での出迎えを禁止する。
(2) 1・3塁ベースコーチは、ホームランを放った打者走者を出迎えるためにホームベース付近へ行くことを禁止する。
8. ロージンバックを多用する投手については、審判員がユニフォームのズボンのポケットにロージンバックを入れるよう指示する場合がある。ただし、その投手がマウンドを降りる際には、元の位置(投手板付近)にロージンバックを戻すこと。
9. 投手交代の際、それまでブルペン等で新たに登板する投手のボールを受けていた捕手は、試合に出ている捕手に対し、アドバイス等のために近寄らず、すみやかにベンチへ戻ること。
[監督・コーチ(ベンチからのアドバイス)の指示と同様と判断し、タイムの回数にカウントすることもある。]
10. 5回終了時のグラウンド整備は行わないこともある。
11. 次打者のウェイトイング・サークルには、マスコットバット・ロージンバック・バットスプレー(各1個)以外のものは持ちこまない。(球場があらかじめ用意しているものは除く。)リング、鉄棒、木製の長尺のバット、及び金属製のマスコットバットの使用を禁止する。
12. 投手を交代させる際、監督はマウンドに行く前(ファウルラインを横切る前)に、球審に投手交代を告げ、コーチがマウンドに行ったときは監督が同時に球審に投手交代を告げる。監督(またはコーチ)がタイムをかけ、投手交代を告げずにマウンドに行き、その後投手を交代した場合は、社会人野球内規14②に定めるタイム1回とみなす。なお、球審への投手交代の通告後、新しい投手の行動が怠慢であるときは、球審の判断で、投球練習数を削減又は行わせないこともある。
13. 投手交代時およびイニング間の投球練習を5球以内とする。
14. 塁上の走者およびベースコーチが捕手または守備側のサインを盗み、打者に知らせる行為は、アンフェアであることから禁止する。
15. 走者が、フットガードやアームガード、走塁用手袋等の着脱は速やかに行うこととする。
16. ベンチ横での投手の投球および野手の送球練習はそれぞれ一組だけとする。
17. 内野手のボール回しを認める。(一回りのみ)ただし、試合時間が極端に長引くことが予想される場合には、球審の判断で途中からボール回しを禁止する場合もある。
18. 打者交代時、監督から球審への手法の簡素化を認める。(当該打者の背番号を見せる等)
19. すそ幅の広いストレートタイプズボンの着用を禁止とする。
20. 加盟チームは、原則として2種類のユニフォームを用意すること(上着のみでも可)とし、一塁側の場合は白、三塁側の場合は白以外の色をそれぞれ基調としたものを着用するものとする。ただし、特別な事情があり、当該試合の主催者が認めた場合はこの限りではない。
21. 試合中、選手が装着するマウスピースは、白色または透明の色に限定する。